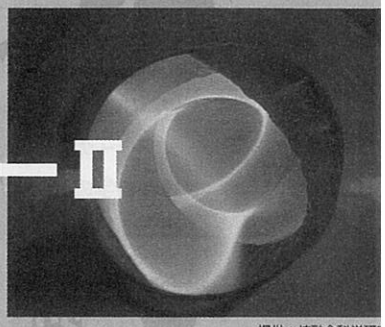
2004 湘南レクチャー

総合研究大学院大学

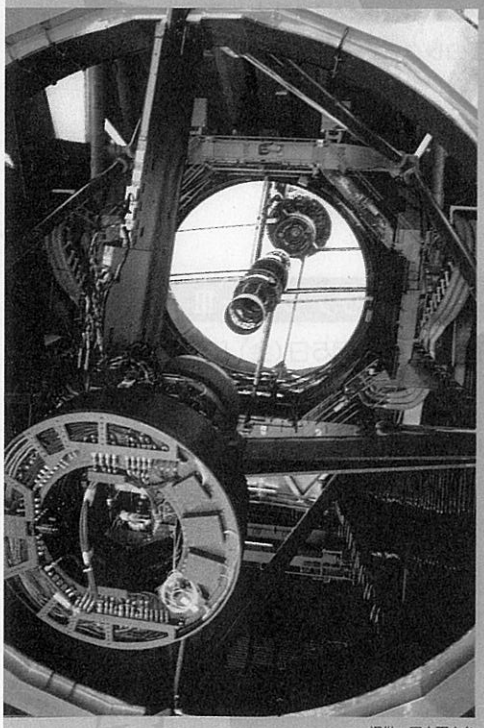
総合研究大学院大学では、全国の大学院学生を対象に、
幅広い視野を持った創造性豊かな研究者を育成し、大学院間の学術的な交流を深めることを目的として、
合宿による短期集中型のセミナーを開講しています。
取り上げられる授業科目は先導的なテーマについて基礎から学習するものとし、
気鋭の講師による講義と徹底した討議を行っています。本年度は下記のテーマについて開講します。



提供：核融合科学研究

科学における社会リテラシーⅡ

2004.8/2［月］▶8/6［金］



提供：国立天文台

［科学原論］

科学における社会リテラシーの展開	教育研究交流センター教授	平田光司
科学哲学1・2・3	東京大学教授	金森　修
質の高い科学的証拠とその利用	統計科学専攻教授	柳本武美
専門知と公共性	東京大学助教授	藤垣裕子

［科学政策・行政］

社会のための科学	生理科学専攻教授	永山國昭
アメリカの科学政策	NSF Tokyo Office	C.Loretz
フィランソロピーと科学	国立民族学博物館教授	出口正之

［科学と社会のコミュニケーション］

「市民のための科学」の可能性	市民科学研究室代表	上田昌文
情報社会変容	国際日本文化研究専攻教授	合庭　惇
日本の博物館・科学館	天文科学専攻助手	縣　秀彦

［演習］

参加学生による発表1・2（講師全員）

全体討論

協力：科学技術社会論学会

■会　　場：総合研究大学院大学　葉山キャンパス
■募集人員：約20名（募集人員を超過した場合は応募者の研究内容等に基づき主催者及び講師で合議の上参加者を決定します）
■参 加 費：16,000円。（宿泊費、朝夕食費込み）ほかに授業料等が必要となる場合があります（本学学生及び本学との単位互換協定大学の学生を除く）詳細は下記ホームページをご覧ください。
■参加資格：原則として全国の大学院生
■申込方法：各大学の担当係に備え付けの所定の申込用紙等をご覧になり所要事項を記入の上、各大学の事務を経由して申し込んでください。
■申込期限：平成16年7月2日（金）（当日消印有効）各大学により申込期限が定められているので、各自確認して担当事務へ申し込んで下さい。
■問合せ先：総合研究大学院大学　教育研究企画室　学務係
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村　TEL046-858-1523　FAX 046-858-1541　e-mail gakumu@soken.ac.jp
■備　　考：参加学生には講義終了後にレポートを提出していただき、合格者には単位を認定します（2単位）。単位については成績評価後、所属大学長に通知します。
講師、講義名等は都合により変更することがあります。

※詳細はホームページ(http://koryu.soken.ac.jp/)をご覧ください。

科学における社会リテラシーⅠ・Ⅱ・Ⅲ

教育研究交流センター・教授 平田光司

Ⅰ.平成15年8月4日（月）～8月8日（金）
Ⅱ.平成16年8月2日（月）～8月6日（金）
Ⅲ.平成17年8月1日（月）～8月5日（金）

今日、社会の中に、科学と無縁なところはほとんど無いといって良い。猛烈な勢いで進展しつつある科学・技術は、20世紀の人類社会に空前の繁栄をもたらすと同時に、副作用として深刻な環境問題や、多数の新たな倫理的・社会的課題をも生み出しつつある。一方、現実の科学研究は社会の中で行われる「社会的行為」でもある。ある研究分野への予算・人材の重点的投入が政策的に行われたり、逆に特定の研究の実質的な禁止など、研究者が社会とのつながりを意識する局面が急速に増えている。

これからの科学者は、社会における科学の役割、科学における社会的側面について無関心では済まされない。さらに、研究において先導的に社会的要請に答え、また、社会に働きかけることも責任として生じてくるだろう。本レクチャーの目的は、将来の科学を担う人材に共有されるべき「社会リテラシー」の構築を目指して講義を行い、社会と科学の関係について考える出発点を与えるものである。科学・技術についての基本的考察と共に、現実的な局面で現れる問題として、科学政策・行政と科学コミュニケーションの視点も欠くことができない。

本レクチャーは、基本的に**「科学原論」「科学政策・行政」「科学と社会のコミュニケーション」**の3分野から構成されるものとする。課題が極めて広範にわたるところから、3年にわたるレクチャーシリーズとするが、上記の3分野は毎年行われるレクチャーにおいてバランスよく含まれるものとする。また、レクチャーはシリーズとして3年連続して行われるが、1年のみの履修も可とする。毎年2単位を出す。また、3年目のレクチャーは国際シンポジウムとする可能性もある。

＊受講者：全国の大学院学生
＊3年間連続して実施する。平成17年の予定については、変更の可能性もある。

科学における社会リテラシーⅠ

平成15年8月4日（月）～8月8日（金）［終了］

1.科学原論

科学における社会リテラシーとは	教育研究交流センター教授	平田光司
科学社会学 1・2・3	東京大学教授	松本三和夫
高度情報通信技術と社会	教育研究交流センター助教授	柴崎文一
ヒトゲノムと社会	生理科学専攻教授	永山國昭
物理学と社会	日本物理学会会長 国際基督教大学教授	北原和夫

2.科学政策・行政

日本の科学政策の現状と課題	文部科学省	有本建男
フランスの科学政策	CNRS東京支部代表	D.Perret-Gallix

3.科学と社会のコミュニケーション

科学ジャーナリズムの現状と課題	日本科学技術ジャーナリスト会議会長 東京理科大学教授	牧野賢治
新聞における科学記事	読売新聞科学部	保坂直紀
マスコミと行政における地震予知	本学名誉教授	神沼克伊
社会における科学リテラシー	科学技術社会論学会会長 南山大学教授	小林傳司

4.演習

参加学生による発表1・2　講師全員
全体討論

科学における社会リテラシーⅢ

平成17年8月1日（月）～8月5日（金）［予定］

1.科学原論

科学における社会リテラシーの展開	教育研究交流センター教授	平田光司
現代科学史 1・2・3	北海道大学教授	杉山滋郎
科学プロジェクトマネージメント		
ジェンダーと科学	三重大学教授	小川眞里子
知的所有権		

2.科学政策・行政

ドイツの科学政策
イギリスの科学政策
研究者育成政策の現状と課題

3.科学と社会のコミュニケーション

アメリカにおける科学ジャーナリズム教育
科学コミュニケーションの「技法」1・2　NPOサイコム、ジャパン理事　林　衛

4.演習

参加学生による発表1・2　講師全員
全体討論